

所属学科：地球科学専攻

氏名：深見 潤

派遣期間：2015年2月23日～2015年2月27日

派遣先：台湾 国立成功大学

0. はじめに

2015年2月23日～27日、台湾において大学や博物館の見学および地質巡検が行われた。台湾は大陸/島弧衝突帯であり、山岳地域ではそのような衝突帯に特徴的な地形や岩石を観察することができる。また、比較的航空費も安く、治安も良いため留学に向いている。今回のプログラムは脇田浩二先生の台湾出張に同行するというかたちで実現した。また、その際に成功大学の Rai 先生（図2中）には食事の手配から地質巡検まで幅広い面でお世話になった。ここに感謝の意をあらわします。本プログラムの日程およびその概要を以下に示す。

1日目：移動（福岡～台湾）
2日目：大学間交流会議，成功大学関連施設見学，お寺見学，巡検（泥火山）
3日目：巡検（衝突帯の地形，豪雨災害の現場，衝突帯の岩石），宴会
4日目：重重地震断層記念館，国立科学博物館見学
5日目：移動（台湾～福岡）

1. 台湾の街並み

国立成功大学は台南市に位置しており、学生の多くはバイクで通学している。山口と同様、公共交通機関よりも自動車のほうが交通の便が良いためである。台南までは桃園国際空港からバスで最寄りの駅へ移動し、そこから新幹線で約1時間半かかる（写真左）。食事は、首都の台北に比べて安いので、外食をする人が多いようだ（図1右）。台湾は中国語を公用語とし、街中の看板は漢字であふれかえっている（図1中）。



図1.（左）台湾新幹線。（中）台南の街並み。大学付近は特にバイクが多い。左ハンドル右側通行。（右）台南でポピュラーなビーフスープ。生姜を添えて食べる。

2. 大学見学

成功大学成功キャンパス地球科学棟において、Rau 先生と脇田先生の大学間協定に関する会議に同席した（図2左）。その後、大学関連施設をいくつか案内していただいたのだが、広大なキャンパスと設備にただ驚くばかりであった。同じ地球科学科でも学生の数は山口

大学の倍以上であり、大学院生も多い。しかし、話によるとフィールドワークに関しては山口大学のほうが力を入れているようである。どの大学にも長所短所はあるようだ。3日目の夜には成功大学の先生方や筑波大学の先生方で食事会が開かれ、そこで成功大学の大学院生と少し話をする事ができた (図2右)。



図2. (左) 大学間協定の会議. 左から Rau 先生, 脇田先生, 深見. (中) 滞在中お世話していただいた Rai 先生. デザートの甘い豆腐とともに. (右) 成功大学の大学院生. 台湾滞在3日目の夜に乾杯した.

3. 博物館見学

国立科学博物館 (以下, 本博物館) は台中市に位置している. 今回はキュレーターの Tung 先生に案内していただいた. Tung 先生は中央アジアの変成岩を中心に研究をされている. 本博物館のうち地質学分野ではキュレーターが6名おり, さらに岩石・鉱物と化石に分かれている. 主に標本室や石工室などを見せていただいたのだが, そこには山口大学でも見慣れた岩石カッターやグラインダーが設置されていた. 岩石を加工して薄片を作成し, 顕微鏡で観察する行程は山口大学でも海外の博物館でもほとんど同じであった. 世界中でも同様に岩石を研究対象とするうえで, 薄片作成が行われていると思うと感慨深い. また, 台湾の変成岩も間近で見ることができた.

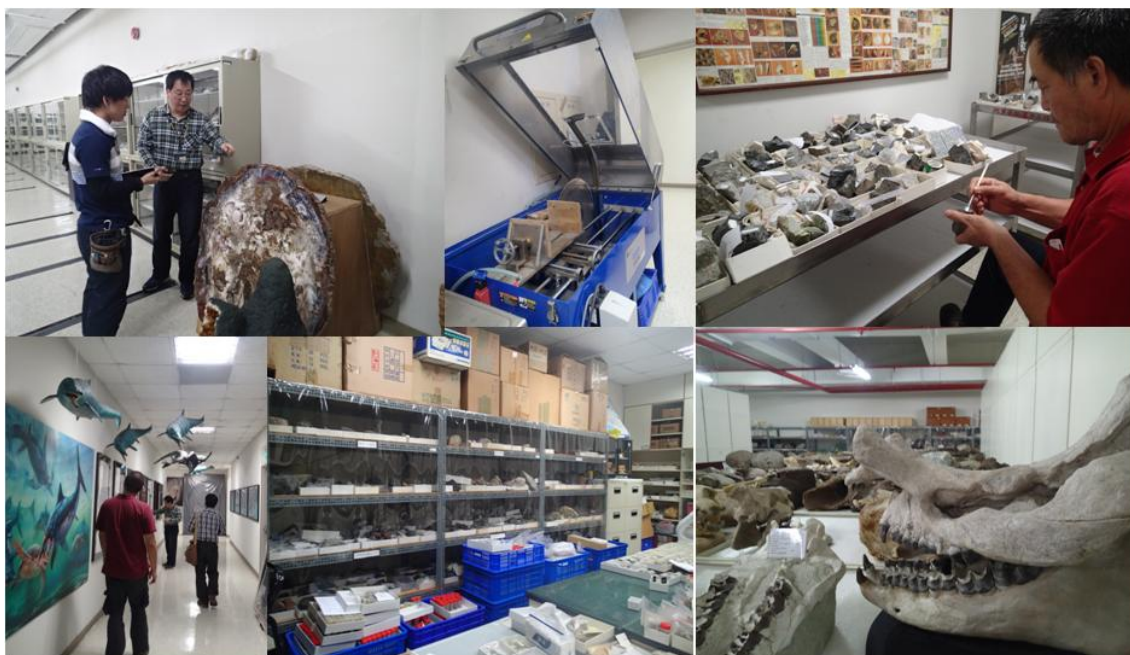


図3. (左上) 標本の説明を行う Tung 先生 (中上) 岩石カッター (右上) 標本の整理をする技師の方. (左下) 廊下. たくさんの標本, レプリカが展示されている. (中下) 整理された岩石標本. (右下) 標本室に保存された化石.

4. 地質巡検 (泥火山・衝突帯)

新養女湖泥火山 (図4 右上) と烏山頂泥火山 (図4 中上) を案内していただいた. 過去の噴出により形成された噴出孔の泥層 (図4 中上) や, 溶岩じわ (左上) を観察することができた.

衝突帯である台湾では, 山脈が北北東へ連なっており, 西から東へ横断するに従って変成岩の露出が多くなる. 今回は付加体と変成岩の境界部にあたる養濃断層周辺で Rai 先生に案内していただいた. 衝突帯の地形は急傾斜の山脈とその谷を埋める大量の土石流堆積物で特徴づけられる (図4 右下). この付近では付加体の構成メンバーである砂泥岩 (図4 左下) や, 枕状溶岩 (図4 中下) およびチャートを観察した. また, 断層沿いの川の上流からは変成岩の礫が運ばれており, いくつかサンプリングすることができた.



図4. (左上) 泥火山の表面のしわ. (中上) 泥火山噴出孔断面. 噴出の歴史が層になって記録されている. (右上) 新養女湖泥火山. (左下) 急傾斜をしめす砂泥互層. 写真右下に脇田先生. (中下) 枕状溶岩露頭. 間隙に方解石脈がはしる. (右下) 衝突帯の地形. 土石流堆積物により形成された平地と山脈のコントラストが目立つ.

5. さいごに

今回の海外派遣プログラムは, 説明会で主に学部生を採用するという話があった. そこで学部生最後の年である私はこれが最後のチャンスだと思い, 本プログラムに応募した. 上記のとおり, 日本では経験できない“国際感覚”というものを肌で感じる事ができた. 当時, 思い切って応募してみた自分がいたからこそ, このような貴重な体験をすることができたのだろう. 以前参加した本プログラム説明会では思ったより人が少なかった記憶がある. 特に学部生は, もっとアンテナを広げ, 説明会に参加し, このようなプログラムに思い切って応募していただきたいと思う. 案外なんとかなるものである.